

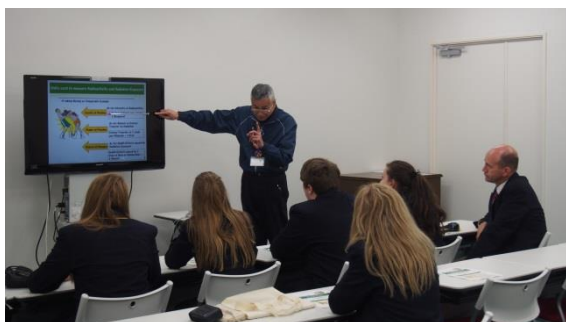
## ニュージーランド タウマルヌイ高校 福島訪問レポート

4月12日（水）

### 除染情報プラザ

概要：福島駅前にある除染情報プラザは、わかりやすい展示やアドバイス、セミナーなどを行い、除染や放射線に関する最新の情報をお伝えする拠点です。

訪問内容：除染情報プラザのスタッフから、放射線の仕組みや原子力発電所の事故による影響についての説明を受けました。その後、模型などの展示を通し、放射線の測定や住宅の除染について学びました。NZ 訪問団から魚（水産物）への影響や最近避難指示が解除された市町村についての質問が出ました。



放射線の単位についての説明



線量の測定体験

### 花見山

概要：日本を代表する写真家秋山庄太郎氏から「福島に桃源郷あり」と絶賛されたさくらの名所です。4月の中旬～下旬の見頃には、県内外の観光客が訪れてきます。

訪問内容：福島駅から臨時バスに乗り、福島の桃源郷に向かいました。花見山に着いてから多様な花の種類を楽しみながら、30分コースで山の上に登ってきました。写真スポットで記念撮影をし、高校生が花見山の神社に参拝しました。最後にイアン先生が記念スタンプを買い、帰りのバスで徐交流員が買ってくれた桜餅と団子をいただきました。高校生に花見山の感想を聞いたら、「風がちょっと冷たかったが、桜やマグノリアなど様々な花が咲いてきれいだった」と言ってくれました。



桜と菜の花の前で



花見山の神社で日本文化を体験

4月13日（木）

JA 農産物直売所「愛情館」

概要：「安全・安心・新鮮」をモットーに県内の農業生産者が丹精込めて作った新鮮で瑞々しい青果物を取り揃える農産物直売所です。

訪問内容：

初めにスタッフから愛情館の概要説明を受けました。

- ・ 検査体制：愛情館では放射性物質と農薬の検査を行っている。県や市町村と協力し、二重、三重のチェック体制で農産物の安全を確保している。
- ・ 取り扱っている商品：主に県中の農家が生産している農産物。農家が毎朝農産物を持ち込み、売れ残ったものを持ち帰る。

説明が終わったら、イアン先生がお礼にニュージーランドのペンなどのおみやげをスタッフにあげました。代わりにアイスをご馳走してくださり、NZ 訪問団が苺、ゴマ、抹茶、そして牛乳味のアイスをいただきました。（いちごは好評だったが、抹茶のアイスはちょっと苦手のようなのでした。）その後、試食をし、いちご、リンゴやトマトジュースなどを買いました。



アイスをいただきました！



愛情館でお買い物

## 福島さくら遊学舎（福島ガイナックス）

概要：アニメの力で復興に貢献しようという思いから、福島三春町にある中学校の校舎を再活用し、設立されました。被災地へ希望を届けるためのアニメ作品や東邦銀行の CM の作成まで幅広く活躍しています。

訪問内容：入場券を買う際におみくじをもらいました。末吉から大吉までが出て、内容の説明で話が盛り上がりました。特に「急がず冷静に行動するべきだ」というデイビッドさんのおみくじが当たりのようでした。次は特別展示の飛び猫の写真展（猫が飛ぶ瞬間を捉えた作品など）を見て回り、その後はガイナックスの常設展を見学し、昔ながらの機械や製作者の職場環境の展示などを見て、アニメ制作について学びました。最後にフィギュアの展示を見て、アニメやゲーム好きのデイビッドさんが喜んでいました。



アニメ制作に使われていた機械を見学



フィギュアの中にはバットマンやスーパーマンも！

## デコ屋敷

概要：三春駒や三春張子人形の発祥地として有名で、300年もの歴史を誇る郡山市にある観光地です。

訪問内容：外の顔出し看板で記念撮影をしてからお店の中に入り、干支の張子人形などの民芸品を見学しました。お店のお母さんが和紙の張子人形の作り方をについて説明してくれました。イアン先生から「張子人形の中に豆が入っている理由は？」という質問があり、「まめまめしく働く」という縁起のいい意味で入れているということをお母さんが一生懸命説明してくれました。その後社長から「震災で福島の名前が世界中に広がり、それをきっかけに海外への PR を考えるようになった」というお話を聞きました。



デコ屋敷で記念撮影



店内に迷い込んだ正体不明のひよっこ

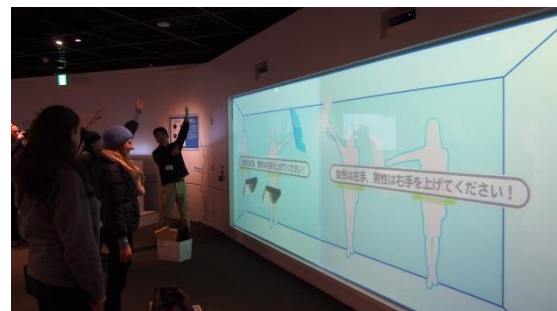
### 福島県環境創造センター

概要：2016年にオープンした施設で、放射線や環境問題を身近な視点からの理解、環境の回復と創造への意識の促進に取り組んでいます。

訪問内容：初めに震災からの復興のあゆみについての映像を見ました。その後スタッフが展示を案内し、原子力発電所の模型を使い、事故の経緯について説明しました。放射線についての展示のゲームなどを通し、放射線について学びました。次は360度のシアターに入り、2つの映像を見ました。ひとつは放射線の仕組みの紹介で、もうひとつは「福島ルネサンス」という福島の魅力を紹介するものでした。NZの高校生が「映像は迫力があって、まるで自分が動いているような気分だった」と言っていました。



震災からの復興の歩みの映像



放射線についてのゲームを体験

最後にコーヒー、昆布、減塩や湯の花の放射線量を測る実験をやりました。

一番高いものを予想してから、実際に線量を測り、比べました。「湯の花」が一番高いのではないかと予想をしていたジェマさんが見事に当たりました。

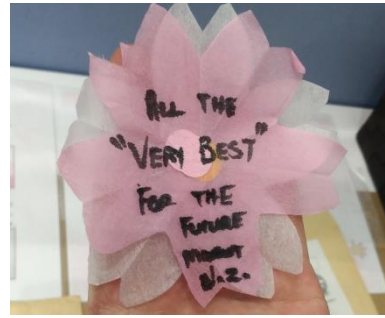
センターを出発する前に、マリア先生が福島への応援メッセージを書いてくれました。

All the “very best” for the future, Maria NZ

(福島には素晴らしい未来を、マリア、NZ)



空間線量を測るイアン先生



マリア先生が書いてくれたメッセージ

4月14日（金）

ふたば未来学園：

概要：震災後、双葉郡内にあった5つの高校が元の校舎での授業再開のめどが立たずにいました。「双葉郡に再び高校を」という思いで2015年4月に開校しました。

訪問内容：

前半でニュージーランドの高校生が自己紹介をし、福島の影響について発表し、「震災当時の報道で原発事故のイメージが強い」という声が多かったです。ダニエルさんからは「去年福島を訪問したイアン先生から話を聞いて状況が分かった。実際に福島に来て、震災で大きな被害を受けているにも関わらず、福島県民は元気で前向きに復興に取り組んでおり、素晴らしいと思う。」と発表しました。その後、双葉未来生が流暢な英語で震災の影響と福島の現状について説明し、NZの高校生が熱心に聞いていました。



福島の状況について説明する双葉未来生



グループで福島とNZの魅力の話し合い

後半でグループに分かれ、赤べこの由来、NZにあるワイトモ鍾乳洞（土ボタルで有名）など福島とNZの魅力について話し合いました。話が終わったら高校生たちがフェースブックなど、連絡先を交換し「楽しかった」、「友達ができた」、「また会いたい」などと喜んでいました。

## 広野中学校

概要：震災後は一時緊急時避難準備区域に指定されたため、隣のいわき市で学校活動が行われたが、2012年10月から元の校舎に復帰しました。

### 訪問内容：

広野中学校では英語の授業に参加させていただき、初めにNZ訪問団が自己紹介をし、中学生が少し緊張しながら、一生懸命英語で自己紹介をしました。次にウィリアム交流員がパワーポイントのプレゼンで簡単にニュージーランドの紹介をし、イアン先生と高校生たちがタウマラヌイ高校のハカ（伝統的な踊り）を披露し、終わってから中学生にも参加してもらい、一緒にハカを踊りました。最後に中学生からの質問を受け「ニュージーランドの美味しい食べ物」や「有名な遊びは？」などの質問が出ました。



タウマラヌイ高校のハカを教えるNZ訪問団



広野中の生徒たちとの記念撮影

## 広野町見学

概要：原子力発電所事故の影響で緊急時避難準備区域に指定されたが、2011年の9月に解除され、町役場は2012年3月に帰還しました。震災の被害を受けた海岸地域の復旧やオリンピック・パラリンピックに向けてのJビレッジの再開など、全力で町の復興に取り組んでいます。

### 訪問内容：

#### 広野火力発電所

町役場の職員に案内され、初めに広野火力発電所を見学しました。副所長が発電所の概要を説明し、震災で地震と津波による重大な被害を受けたが、4カ月間で修理し、運転を再開できたとのことでした。その後、発電所が見渡せる展望台に行き、オイルタンクや発電機の建屋を見ながら発電所の設備の詳しい説明を受けました。沖合の遠くに洋上風力発電所の姿が微かに見えました。

## 防災緑地

発電所を見学した後は広野町の海岸を南下し、津波の被害を受けた地域に行きました。堤防の強化と嵩上げ、道路や土地の再編、そして防災緑地という「多重防衛」を目標として海岸沿いの地域の復興に取り組んでいます。防災緑地の5000本もの植樹は町役場の職員とボランティアと一緒に植えました。案内してくれた職員が「津波で犠牲になられた方を忘れないで、二度とこういう被害が出ないようにという思いで町の復興に全力を入れている。復興が進んだらぜひまた広野町に来てください。」とNZ訪問団に呼びかけました。



火力発電所を見学



広野町の防災緑地を見学

## 町長表敬

広野町の遠藤町長が温かくNZ訪問団をお迎えしてくださり、広野町の復興と未来の要望について説明しました。

- ・NZをはじめ、世界からの支援に感謝している。
- ・昨年広野町で国際フォーラムを開催したが、結論としては「本音で語り合えば、思いがひとつになり、復興に向けて一緒に頑張れる」ということが分かった。
- ・2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて努力している（Jビレッジの再開・サッカー、バドミントン選手の養成など）。

説明が終わったら、ダニエルさんは「震災で大きな被害があったにも関わらず、めげずに前向きに頑張っている福島県民は素晴らしい」と言ってくれました。

イアン先生が遠藤町長のお話に感動し、涙をこらえながら、「福島県は一人じゃない、私たちはずっと応援している」と激励の言葉を送りました。

最後に遠藤町長が記念にNZ訪問団に広野町産のコシヒカリをプレゼントしました。2013年の11月に震災後広野町で初収穫のコシヒカリが宮内庁に提供され、天皇陛下が召し上がりましたとのことでした。お礼にイアン先生がタウマラヌイ地区のスケッチブックを差し上げた。最後に遠藤町長が「広野町の学生は交流事業でカナダやオーストラリアに行っているが、できれば今度NZにも行ってほしい、ぜひまたお会いしましょう」と表敬訪問を締めくくりました。



遠藤町長との記念撮影